

後にはどこの池にも群生し、実を田舟で採集して食用にしたと在住者の方々は証言している。しかし、近年の耕地整理など環境変化で少なくなったとはいえ、まだその年によって相当な群落がみられるようだ。菱田氏(1983年)は、上の池で群生を確認しているし、長池北側水路において旺盛な生育状況を観察記録している。

今回9月23日、10月18日の両日筆者らの概観でも、上の池には100株以上オニバスが群生して池の水面を覆っていた。更に新池にも50株以上の群生がみられ、クラブハウスのあるやぶ下池に2株、良好なオニバスの生育を

確認した。また各池沼の周囲にはヨシ・マコモが群生し、池の中にはヒシ・オニビシ・トチカガミ・ホテイアオイ・アオウキクサ・サンショウモ・マツモ・クロモなどが生育しており、多彩な水草相が観察できる興味ぶかい水郷地帯であった。

以上、調査報告をするにあたり、海津町の菱田雅雄氏の御家族、並に南濃町戸田水郷の日比和夫氏には大変お世話になった。記して感謝の意としたい。

常滑市椋原公園の水草

中井三従美

本誌No.28(1987)で浮葉、地下茎などの形状からヒメコウホネと判断していた同種は、6月1日開花、6月3日、名古屋浜島繁隆先生に、ヒメコウホネ *Nuphar subintegerrimum* Makino と同定していただき、7月8日には、池の囲りにヒメコウホネ開花数42、中央部に、ホソバミズヒキモの花も見られた。

その後、数回、同池を訪れタヌキモ類の観察を続け8月15日、開花を見て、花の形状、花茎にりん片、葉間に呼吸枝などがあることからタヌキモと思われた。

8月22日、浜島先生、千葉の阿部俊朗氏が知多半島の水草を調査に来られた時に、同池に案内し、水草を見ていただいた。

9月20日、日本歯科大学の柴田千晶先生が当地の食虫植物を調査に来られたおり、同池のタヌキモ類をみてい

ただき、ノタヌキモ、タヌキモの2種を同定していただいた。

この池は、常滑市椋原公園の中にある4ヶ所のため池の1つであるが「ため池は、大きな教育的意義をもつ生態系を示す宝庫である」と市誌にもあり、貴重なため池として、後世に残したく市の方へお願いをした。

神奈川県内のタヌキモの産地

苅部治紀

神奈川県では、水草全般に減少が著しく一般に普通とされるものも極めて少ない。今回その内特に稀なタヌキモについて報告する。

県内において過去記録があるのは、箱根町仙石原で現在も健在であるらしい。筆者は最近この他に2ヶ所の産地を確認した。川崎市麻生区黒川と相模湖町相模湖ビクニックランド内の池である。黒川では休耕田の水たまりで確認し、1984年発見以来継続して生育している。相模湖ビクニックランド内の池は1987年に須田真一君により発見されたもので、両地とも多量に生育している。未筆となったが、貴重な記録の発表を快諾してくれた須田真一君に深く感謝する。



常滑市椋原公園のヒメコウホネ (S. 62. 7. 8. 撮影)